

<平成30年度 ハローオリンピズム事業>

# オリンピック教室

実施報告書

秋田県 大潟村立大潟中学校







平成21年4月の学習指導要領の改訂以来、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目 体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが明確化されています。その中で、中学校3年生の保健体育の「体育理論」の学習内容には、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」とオリンピックの意義が明示されています。そこで、JOCでは、体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から「ハローオリンピズム事業」の一つとして、授業形式で行う「オリンピック教室」を実施しております。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表として実際にオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められており、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことのできない感動が生まれることを期待しております。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）及びオリンピック精神の教育的価値等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身に学習してもらうこともねらいとしております。

また、「スポーツ基本法」の前文の一部には、「スポーツは、世界共通の人類の文化であり、次代を担う青少年の体力を向上させるとともに、他者を尊重しこれと協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培い実践的な思考力や判断力を育む等人格の形成に大きな影響を及ぼすものである」との記述があります。生徒のみなさんが「オリンピック教室」で学習することで、この基本法に記された精神や態度が日常生活の中で具現化され、生涯にわたってスポーツに親しむことができるようになることを願っています。



- 実施目的** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、オリンピアン自身の様々な経験を通して「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、この価値はオリンピアンだけのものではなく、多くの人々が共有し、日常生活にも活かすことの出来るものであることを学習してもらう
- 名 称** : JOCオリンピック教室
- 主 催** : 公益財団法人 日本オリンピック委員会
- 後 援** : スポーツ庁
- 協 力** : 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対 象** : 中学2年生
- 講 師** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）  
※派遣オリンピアンはJOC側にて選定
- 期 間** : 平成30年4月～平成31年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数** : 60校程度
- 実施方法** : クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業



※学校の通常の授業時間をベースに実施  
※運動の時間と座学の時間の間に10分の休憩時間があります



## 1時限目

### 運動の時間

オリンピックの専門競技の技術指導（＝スポーツ教室）ではなく、  
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶（5分）

準備体操（10分）

主運動（30分）

まとめ（5分）



自己紹介  
今日の学習内容の確認



準備体操



主運動  
（作戦タイム等を受け、  
生徒が考える機会を作る）



運動の授業のまとめ

※時間は目安です  
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

## 2時限目

国際オリンピック委員会（IOC）が推進する「オリンピックの価値」等を、  
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際に  
オリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると  
同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後活かせるような学習内容

### 座学の時間

挨拶・自己紹介（10分）

オリンピックの価値を伝える（10分）

グループワーク（20分）

まとめ（10分）



学習内容の確認



写真・映像等を使用  
した自己紹介



オリンピック自身の経験に  
基づく「オリンピックの価値」等  
を伝える



グループ（個人）ワークで  
話し合った内容を発表



全体のまとめ/記念撮影

※時間は目安です  
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

# 実施内容

- 期 日 : 平成30年7月5日 (木)
- ク ラ ス : 2年A組 (21名)、2年B組 (21名)
- オリンピアン : 山根 朋恵 先生 (アイスホッケー)



## 授業のながれ : 運動の時間 (1時限)

### 1. 自己紹介～授業の目的確認



・簡単な自己紹介の後、運動と座学の時間を通してオリンピックについて学ぼうと目的を伝え、オリンピックバリューについて「エクセレンス＝頑張る、ベストを尽くす」「フレンドシップ＝友情、協力し合う」「リスペクト＝敬意、フェアプレー、感謝をする」と説明。運動の時間では「笑顔で楽しく全力で、失敗してもいいから全力で取り組む」「仲間と協力して取り組む」「ルールを守る」の3つを約束し、準備体操に移る。

### 2. 準備体操



### 3. 主運動



・6班対抗でフロアホッケーパスリレーを実施。各班2列に並び、向かい合って互い違いに並び、向かいの人にパスを出したら隣の人へスティックを手渡す。ボールがスタート地点まで戻ったら全員がその場に座る。各回終了後にタイムを縮めるために作戦タイムを設けて話し合う。

### 4. まとめ



・皆が笑顔で、全力で取り組んでくれたことが良かったと伝える。  
・座学の時間ではオリンピックバリュー（エクセレンス、フレンドシップ、リスペクト）やオリンピックの歴史について学んでいきたいと予告し、全力で楽しく、協力し合い、ルールを守って取り組んだこの時間の中で感じられたことを忘れないでほしいと改めて伝え、授業終了。



■ 授業のながれ：座学の時間（2時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



2. オリンピックの価値を伝える



- ・座学の時間では、皆にオリンピックバリューを実感し、オリンピックを身近に感じてもらいたいと授業の目的を確認。
- ・オリンピックバリューを紹介しながら自身の経験をもとに、全力で挑戦する、自分の意見を発言する、感謝の気持ちを口に出すことの大切さを伝える。

3. グループワーク



- 発問：合唱コンクールに向けて目標を定め、オリンピックバリューをどのように活かせるか考えてみよう。
- 発表：練習を積んでいいところを増やしていく、自信をもって歌う、一人ひとりが意見を出し合い、その目標に向かって協力して取り組む(エクセレンス)、アイデアを出し合う、一心同体、気持ちを一つにして全力で歌う、意見を出し合いお互いを励まし合う(フレンドシップ)、家族・地域の人・先生に感謝する、教えてもらった人に感謝して歌う(リスペクト)等の意見が挙げられた。

4. まとめ



- ・今後クラスで話し合う機会があれば、今回のように目標を決め、その目標を達成できるように考えたことを実践してほしい。部活や受験等、これからの人生でチャレンジする機会がたくさんあるが、結果にとらわれず全力で取り組んでほしいと伝え、授業終了。



■ 集合写真

2年A組、B組



■ 記念品贈呈

2年A組、B組



■ 修了書贈呈

